

第77回 大分県畜産共進会  
審査報告

平成28年11月

大分県畜産共進会実行委員会

# 審 査 講 評

第77回大分県畜産共進会

肉牛の部（平成28年10月1日）

第77回大分県畜産共進会、肉牛の部の審査が皆様のご協力により無事終了したことに對しまして、審査委員を代表して心からお礼を申し上げます。

枝肉の審査につきましては、（社）日本食肉格付協会の牛枝肉取引規格を基準として行いました。

まず、黒毛和種去勢牛ですが40頭の出品がありましたが、残念ながら枝重不足で1頭が参考出品になったことから、39頭で審査いたしました。

出品牛の月齢は26か月～29か月で、平均28.3か月でありました。

種雄牛別では隆茂38が15頭と最も多く、続いて玉吹雪が7頭、寿恵福が6頭と、その他が11頭でありました。着実に世代が進んでいるなと感じました。

枝肉重量では最大633.8kg、平均520.8kgでした。

次に枝肉の格付け状況ですが、歩留等級につきましては、A等級33頭、B等級6頭で、A等級割合は84.6%でした。

肉質等級では、5等級20頭（51.3%）、4等級15頭（38.5%）で4・5率は89.7%でした。

また、肉質につきましては、BMS Noは最高が12で、平均8.0、ロース芯面積は最大101cm<sup>2</sup>、平均68.6cm<sup>2</sup>で、皮下脂肪の厚さは、平均3.1cmでありました。

日本食肉格付協会の審査委員さんから、近年にまして肉質の良いものが揃ったという言葉頂きました。

なお、オレイン酸55%以上は11頭で昨年と同頭数でした。

今後とも一層のご努力によりすばらしい「おおいた豊後牛」を生産していただきたいと思ひます。

次に、2区の交雑種去勢牛は10頭の出品でした。

出品月齢は23～29か月齢で平均25.6か月でした。

枝肉重量は平均538.2kgでした。

格付けについては、歩留等級はA等級が1頭、B等級6頭、Cが3頭、肉質等級は、5等級が1頭、4等級が3頭、3等級が5頭で、3等級以上が90%でした。

こちらとも昨年比べ良好な成績となりました。

今後とも「おおいた豊後牛」同様、一層の技術の向上に努めていただきたいと思います。

以上の結果から、和牛の部のトップは玖珠町の（有）ファゼンダ・グランデさん出品の13号牛、交雑牛の部のトップは豊後高田市の後藤忠さん出品の49号牛、全体のチャンピオンとして13号牛を選出させていただきましたので報告いたします。

来年度はいよいよ宮城全共の開催であり、肉牛区の成績がその後の豊後牛評価に直結しますので、皆様方の努力に大いに期待いたします。

以上で審査講評を終わります。

平成28年10月1日

第77回大分県畜産共進会 肉牛の部

審査委員長 石橋 隆史



# 審 査 講 評

第77回大分県畜産共進会  
肉用牛の部（平成28年10月15日）

第77回大分県畜産共進会肉用牛の部には県内各地から、若雌区（第1区～第5区）に9ヶ月から20ヶ月齢までの58頭、繁殖雌牛群（第6区）に14ヶ月齢以上の3セット6頭の合計64頭が出品されました。地域の予選を勝ち抜き、長期間に渡る飼養管理には心から敬意を表します。

なお、本年度から繁殖雌牛群（第6区）は、出品者の負担軽減と、より多くの地域からの出品を目的に、これまでの1群3頭から1群2頭への変更となり、将来は全共の高等登録群出品を目指す区として位置付けました。全体の講評について、以下のとおり報告します。

若雌区を父牛別に見ると、「百合茂」11頭、「平福安」10頭、「安福久」と「隆茂38」各6頭、「美国桜」4頭、その他の種雄牛産子は23頭で、種雄牛としては合計18頭となっていました。県有種雄牛産子は全58頭のうち24頭で、41.4%を占めていました。

今回の出品牛の発育（体高）については、過大な発育を避ける意味から若雌（23ヶ月齢以内）については、2δ、また成牛（24ヶ月齢以上）は1.5δを基準としていますが、全国和牛登録協会の黒毛和種正常発育曲線で2δを超えた牛が若雌区で64頭中6頭、9.4%に見られました。

栄養度については、これまで以上に適切な管理がなされており、測定時の栄養度判定において「7」と判定されたものは、出品牛64頭中わずか2頭でした。全国和牛登録協会の調査によると分娩前の栄養度6程度のものが、分娩後の初回発情、受胎成績も良好となっていますので、肉用牛の生産性の向上と経営面からも栄養度管理にご留意頂きたいと思います。

全体的な所見としまして、美点としては発育、体積、側望の均称、品位、体上線、肢蹄等があげられます。特に品位という点では、体積の豊かさを保ちながら、体の締まりが良く、輪郭鮮明なものが多く見られました。また、資質、骨味の良いものも多く、全体的に種牛性の高い者が多く出品されていました。

一方、惜しまれる点としては、前軀幅（特に上肩の幅）が不足しているものや、肩後、肘後の充実にやや欠けるものが散見されました。この点については、来年開催される宮城全共に向けての改善すべき課題と思われまます。

今回、若雌の4（第4区）で農林水産大臣賞を獲得した由布市挾間町の小野美代子さん出品の「かみたまづる2」（父は「安福勝」）は、発育良好で、体積、均称、品位に富み、部位とすれば前軀が最も良く、幅、深さ、胸の広さ、胸底の平らさに優れておりました。また、中軀への移行もすばらしく、充実した前軀でした。その他、骨味も良く、肢勢、強さ、鮮明さ等を含めた肢蹄についても優れていたと思われまます。惜しまれる点としては、測定値からも分かるように、やや後軀の幅が狭いことと、体の伸びがやや不足していることです。

しかしながら、各部位のレベルが非常に高く、輪郭鮮明で種牛性の高い牛でした。

また、若雌区の女性・後継者の部（第5区）で九州農政局長賞及び部位賞を獲得した竹田市直入町の吉野純子さん出品の「よしふく215」（父は「平福安」）は、特に品位に優れ、体の締まりが良く、輪郭鮮明で、種牛性という点では非常にレベルの高い牛でした。また、体上線、資質、乳徴も良く、側望からの均称も優れていました。惜しまれる点としては、やや前軀幅（特に上肩の幅）が不足していることと、やや外腿の充実に欠けることでした。

なお、この牛の頭頸については、鮮明さ、体との釣り合い、鉢繋り、顎張りが良く、最良に近いものであったため、特別賞「頭頸賞」としました。

以上簡単ですが、審査講評とさせていただきます。

平成28年10月15日

第77回大分県畜産共進会 肉用牛の部  
審査委員長 石橋 隆史



# 審 査 講 評

第77回大分県畜産共進会

乳用牛の部（平成28年10月26日）

このほど開催された第77回大分県畜産共進会～乳用牛の部において審査を担当しましたので、審査概況を報告します。

乳用牛においては泌乳能力を高めることは云うまでもありませんが、長年にわたり高い泌乳能力を維持するためには機能的な体型を備えることが重要といえます。従って、本共進会においても、未經産牛では将来を見据えて体各部位の発達の度合いと肢蹄の構造、飼料効率面から重要な乳用強健性を、また、経産牛では高い泌乳生産に深く関係する乳器を重要視した審査を行いました。

さて、このたびの共進会には未經産牛が4部45頭、経産牛が3部18頭、計63頭が出品されました。

未經産牛では、上位は発育がよく、乳用強健性に優れたものが出品されましたが、全体的には尻の構造に問題があるものや肋張りに欠けるもの、肢蹄のやや弱いものが見られました。

経産牛では、乳房が充実し、乳用性に富むものが多く出品されました。特に初産クラスでは乳房底面が高く、収縮性に富む質の良い乳房が揃っていたことが印象的でした。しかしながら、尻の構造に難があるものや肢蹄の弱いもの、乳房底面の深いものが散見されました。

## 第1部（未經産 10か月齢以上12か月）

この部には16頭の育成牛が出品されました。全体的に発育が良く、体各部位のバランスの取れた牛が多く出品されておりました。

中でも114号は発育良好で、からだ各部の移行とバランスが良く、尻の構造も正確で、さらに、肋の開張が極めて良く、乳用強健性に優れていたことからこの部の一席としました。二席の101号も一席の牛と同様乳用強健性に富んでおりましたが、中軀の充実度、特に肋腹の構造といった面においてより一席の牛の方が優れていたと判断しました。

## 第2部（未經産 13か月齢以上15か月）

この部は12頭の出品でしたが、この時点の発育をみてどのような交配をするか考えるところです。全体的には十分な発育を示しており、正確な骨格構造をした牛が多く見られました。

その中で204号はからだ全体のバランスが良く、尻の構造も極めて優れていたことからこの部の一席としました。二席の203号は体全体の力強さといった面に優れた牛でしたが、本日はその美点を上手く見せてくれなかったことが惜しまれます。

### 第3部（未経産 16か月齢以上18か月）

この部は7頭の出品でしたが、既に受胎しているもの若しくは授精はしたが確認できていないものなど色々なステージのものがおりました。その中で将来の後継牛として相応しい牛を選ばせていただきました。

まず、308号は正確な骨格構造をもち、肋の方向と開張がきわめて優れており、歩様もスムーズであったことからこの部の一席とするとともに、未経産のリザーブチャンピオンに選びました。二席の301号はこの部の中でも最もサイズと長さのある牛でしたが、歩様にやや難があることが惜しまれました。

### 第4部（未経産 19か月齢以上22か月）

この部は10頭の出品でしたが、既に分娩を年内に控えているものがおり、ある程度の肉付きは許されるものと判断して審査させていただきました。

まず、407号は極めて正確な骨格構造を示し、前駆の構造に優れていたことと圧倒的な乳用性からこの部の一席とし未経産の部のチャンピオンとしました。二席の411号は乳用性に富んだ牛でしたが、尻の構造にやや難があったことが惜しまれました。

### 第5部（経産 3歳未満）

この部には7頭の牛が出品されました。出品牛全体の印象としては初産らしい強い付着を示す乳房をつけたものが多く見られたことが改良の賜と考えられました。その中で501号は体各部の移行とバランスが良く、乳用強健性に優れた牛でした。乳房についても前乳房の付着が強く、後乳房の幅があり、乳頭の配置も極めて良いことから、この部の一席並びにベストアダーとしました。二席の502号も初産らしい付着の強い乳房を見せてくれましたが、からだ全体の移行の滑らかさという点で一席の牛が優っておりました。

### 第6部（経産 3歳～4歳）

この部には2産目6頭の経産牛が出品されました。いずれも乳用強健性に富み、乳房の質がよく、肢蹄の良いものが多く見られましたが、一部の牛で乳房に問題があるものが見られました。

その中で608号は2産目で、正確な骨格構造をもち、極めて乳用強健性が優れておりました。乳器は前乳房の付着が強く、後乳房は極めて高く、幅があり、靱帯も鮮明であったことから、この部の一席並びにベストアダーとしました。二席の606号は極めて前軀が強く中軀の伸びも優れた牛でしたが、肋の長さと同張度といった面において一席の牛の方がわずかに勝っていました。

#### 第7部（経産 4歳以上）

この部には5頭の出品がありました。2産、3産、5産と産次が異なることからこの点も考慮して審査させていただきました。いずれの出品牛も乳用強健性に富み、パワフルな乳房を付け、経営に貢献していると考えられるものが多く出品されておりました。

その中で705号は、既に5産をしておりますが正確な骨格構造を示し、乳房も極めて付着が強く幅があったことから、この部の一席並びにベストアダーとし、経産牛の部のチャンピオンとしました。二席の703号は3産目で極めて雄大なフレームとパワフルな乳房を見せてくれ、さらに体全体の鮮明さといった部分に優れていたため、経産牛の部のリザーブチャンピオンとしました。

以上、全体の印象と各部上位牛の審査講評を述べましたが、未經産牛では将来にわたりその遺伝能力を発揮できるよう、特に育成時期には十分かつ良質な粗飼料を給与するとともに、適度な運動ができるような管理をほどこしていただきたく、また、経産牛にあっては乳房炎を起こさないよう平素からの適切な飼養管理・乳房管理に留意され、生涯にわたり高い泌乳能力を引き出すこととすぐれた後継牛を生産することを心がけていただきたいと思います。

平成28年10月26日

第77回大分県畜産共進会 乳用牛の部

審査委員長 石橋 隆史

